

米子水鳥公園

レンジャー通信

水鳥公園の指導員(レンジャー)によるさまざまな活動をご紹介します。

米子水鳥公園 (☎24-6139、FAX24-6140)



皆さんの寄付で子どもたちが笑顔に!

鳥を観察するとき、望遠鏡では覗いている人ひとりしか鳥が見えませんが、遠くにいる特定の鳥を、大人数で同時に観るためには工夫が必要です。

そこで、米子水鳥公園では、デジタルビデオカメラと大型液晶テレビを使って、遠くの鳥を大きく映しています。液晶テレビは、米子市のふるさと納税の「がいな米子応援基金」で購入していただき、ビデオカメラは、地域貢献団体スワン米子から寄付していただいたものです。この機材がなかった時は、大きくプリントした鳥の写真を使って説明することしかできませんでした。



液晶テレビに鳥を映しながら
児童に解説

した。しかし今日では、遠くにいる鳥をリアルタイムで、かつ拡大縮小自在、高倍率・高画質で大画面に映すことができ、さらにはオートフォーカスで録画もできます。



ビデオカメラ
とらえた鳥を
液晶テレビに映す

この機材が特に活躍するのが、幼稚園や小学校の遠足でこ来館いただいたときです。大人数の園児や児童に、遠くの鳥を大きく映しながら説明すると、生中継されている鳥の様子を観て、歓声が上がります。今現在活動している鳥を大人数で同時に観察できるのは画期的なことです。米子市に寄附いただいた皆さんと、スワン米子の皆さんに、心より感謝申し上げます。
米子水鳥公園専任指導員 桐原 佳介

美術館通信

常設(コレクション)展「岩宮武二 目前心後」より

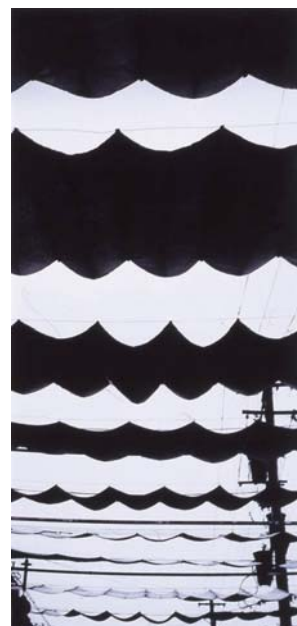
岩宮武二 《日覆い》

米子に生まれ、戦後大阪を拠点に活躍した写真家・岩宮武二 [1920-1989]。彼の実家は和菓子店でしたが、写真館を営む叔父の影響で少年時代からカメラを手に入れました。運動神経も抜群で、米子商蚕学校(現・米子南高等学校)卒業後、プロ野球の南海(現・福岡ソフトバンクホークス)に入りますが、体を壊しあえなく退団。会社勤めをしながら写真クラブに入り、撮影のセンスと技術を磨きました。

本作は、岩宮が26歳の夏、大阪・天神橋筋の闇市で撮影されました。強い日差しを遮るために張られた幕がたわんでいるのを見上げたのでしょう。規則的に波打つ幕は黒く、空は白く、明暗の差が強調され、岩宮の造形的な関心がうかがえます。

本作をはじめ、これまで郷里で紹介される機会の少なかった岩宮の作品を紹介する常設展「岩宮武二 目前心後」は、本年9月に開催予定です。

☎米子市美術館 (☎34-2424、FAX33-0679)



岩宮武二《日覆い》1946年